

本指導案は、「2016年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

美術科学習指導案

1. 題材名 「屏風の世界へ入ってみれば・・・」

2. 題材作品 下村観山《小倉山》 1909年（明治42年） 絹本着色、六曲屏風一双
各 157.0×333.5 cm 横浜美術館蔵

3. 実施学年 第2・3学年

4. 学習指導要領との関連 B鑑賞（1）ア、ウ

5. 本題材について

本題材で取り上げる下村観山の《小倉山》を、生徒が自分なりの価値意識を持って鑑賞を深めるために、作品の屏風という形態に注目する。日本の伝統的な美術文化の一つであるという屏風の側面に触れるとともに作品の置き方や見る位置や光の当て方によって、作品がどのように見えるかを探らせることで、生徒自らが屏風をじっくりと見る行為を引き出し、鑑賞を深めさせたい。

6. 題材目標

屏風の形態に注目して、日本の美術文化に触れるとともに、《小倉山》の空間表現や、屏風の置き方によって作品の見え方が異なることに気づき、自分なりの価値意識をもって、作品のよさを主体的に味わう。

7. 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
屏風の形態に注目して、日本の美術文化と作品の表現に関心をもつとともに、屏風の置き方や見方などの多様な鑑賞の方法を考えて、楽しみながら作品の見方を広げたり深めたりしようとしている。	作品の空間表現や、屏風の形態に注目し、屏風の置き方を工夫することによって、作品の見え方が異なることに気づき自分なりの価値意識をもって、作品の主題をつかんでいる。

8. 準備

指導者： 作品図版(大きいもの)、作品図版(小さいもの、生徒全員分)、ワークシート、書画カメラ、ライト(懐中電灯でも可)、12帖の畳フォーマット(紙製、作品図版と同じ縮尺、班の数分)

※横浜美術館のウェブサイトから、6帖の畳フォーマットをダウンロードできるようにしています。
これをB4サイズで出力し2枚を繋げると、「投影用画像」の2、3ページ目をA4サイズで出力した作品図版と縮尺が合い、屏風を畳の上で広げている感覚で、生徒が屏風のサイズをより実感しやすくなります。



生徒： 筆記用具

9. 授業展開 (全2時間)

1	学習活動	指導内容および留意点
導入 20分	① 黒板に提示された作品図版(大きいもの)を見て、描かれているものや、その印象について、学級全体で述べ合う。 【ワークシート 1. 屏風の世界をのぞいてみよう!】	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれている場所、人物、動物、もの、季節、時間、天候など、じっくりと見させて、たくさんの発見を引き出す。 ・右隻左隻の空間のつながりについても、注目させる。
	② 屏風の形態や、伝統的な日本家屋で屏風がどのように扱われたかについて知る。 ③ 作品 図版(小さいもの)を折って、右隻と左隻を並べて立てて、畳フォーマットの上に置いてみて、折る前とは何が違って見えるかを班で述べ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・屏風が日本の伝統的な絵画の作品形態であることを意識させるとともに、古来より生活の中でどのような用途を持っていたかを理解させる。 ・畳フォーマットの上に作品図版を置くことで、作品のスケールをつかませる。 ・屏風の折り方や置き方や光の当て方によって、見え方の印象が変わることに気づかせる。 ・金地や使われている色彩と光の効果の関係について気づかせる。

展 開 (1) 30 分	④ 生徒一人ひとりが、自身が屏風の世界に入っていくつもりで、作品図版(小さいもの)の屏風を自由に動かしながら、右隻と左隻をどのように置いて、どの位置から見ると、自分の見方で作品を楽しむことができるかを考え、そのアイデアをワークシートにまとめる。 【ワークシート2. 屏風の世界に入ってみよう!】	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の天井の電灯は消して、自然光やライトなどで、光の当て方も工夫させる。 ・置き方や見る位置(高さ)などを変えてみると、どのような見え方ができるかを考えさせて、作品の解釈の広がりにつながるようにさせる。 ・自分の見方をより引き立てるためには、どのような場面や、どのような気持ちの時に、この屏風を鑑賞したのかも考えさせる。
	⑤ 班の中で、一人ひとりのアイデアを発表し合う。《小倉山》の作品に、見る人が入り込めるような一番おもしろいアイデアと思われる案を、班で一つ選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・班で発表するとき、互いのアイデアを尊重しつつも、各々の意見をできるだけ出させて、屏風の並べ方、見る位置、光の当て方で、見る人と作品の関わりや解釈が変わってくることに気づかせる。

2	学習活動	指導内容および留意点
展 開 (2) 40 分	⑥ 前時を振り返り、発表の準備をする。 ⑦ 学級全体で、班ごとに選んだアイデアを発表する。 ⑧ 班ごとの発表後、様々なアイデアを聞いて、作品に対して新たに発見したことを述べ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で発表する案について確認し、発表の際の役割分担をする。 ・書画カメラで、畳フォーマットの上に作品図版を並べたものをとらえて、クラス全体に見せる。 作品の並べ方、見る位置、光の当て方などを具体的に見せながら、発表させる。 ・発表の際、並べ方によって、人物や生物の様子や空間がどう見えるかに必ず触れさせる。
ま と め 10 分	⑨ 自分のアイデアの他、班や学級で出させた複数のアイデアを知って、作品に対する自分の見方が変わったことや、深まったことについて、ワークシートにまとめる。 【ワークシート3. 屏風の世界を語ってみよう!】	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の見方やその楽しみ方や解釈の多様性に気づかせるとともに、自分自身の見方の深まりや広がりを確認させる。
	⑩ 《小倉山》は、横浜美術館のコレクション展で、本物を鑑賞することができることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館へ行って、本物の作品を楽しんで鑑賞してみようという興味を抱かせるように、情報などを伝える。

(指導案作成：横浜市立中学校教諭 山田香織／圓谷 唯／渡邊 淳)

■指導案作成者からのメッセージ

本題材で取り上げた下村観山の《小倉山》は、横浜美術館コレクションを代表する作品となっています。横浜の子どもたちがこの作品と出会い、愛着を持って鑑賞してほしいと願います。また作品が屏風という形態であるため、生徒たちが日本美術文化を生活の場面と結びつけて学ぶという視点も大切にしたいと考えました。

屏風《小倉山》を楽しんで鑑賞するために、生徒自らが屏風の並べ方や光の当て方を工夫することで、作品主題に迫るという学習内容を考案しました。先生方が本指導案で授業を行う際には、屏風の置き方について生徒たちの自由で柔軟な発想を引き出し、作品の主題については生徒が相互に対話を楽しめるようにご指導いただければ幸いです。

■参考文献

- ・『横浜美術館コレクション選』横浜美術館、2014年
- ・展覧会カタログ『生誕140年記念 下村観山展』横浜美術館、2013年
- ・安村敏信『ワイドで楽しむ奇想の屏風絵』東京美術、2010年
- ・木下史青『博物館へ行こう』岩波書店、2007年
- ・NHK「美の壺」制作班/編『NHK 美の壺 屏風』NHK出版、2008年